



湖月抄

あし

十三





一うかた成王の思ふより多うよなりてまよもりのごとくはるわり今保成と
周公且よるむく入て十三日すての御風とつらみ棟の巻よ文王の子成王の青とらひお
くくまびよる人のくも也 孟周公東都よりつる尚書ホありこれと下り合
くくまびよる抄抄

ふづりしと 細 友達の世れぬよ又つる凡の恐怖あつた恐るのこつたれぬ也
世はゆりまれもくして八人うつれま

播戸園はまうされて扱ひそよおよのかりて母あよめひ治と申してきて罪とゆて
ううは大事府人ううされまうり 著花物語よえくうり 潘氏いづうり 彼よよ下り
とく 思ふ事 終

は周よとつたれてま 細 人ううをませし終る也 神勝也 上扱のつひひ 孟 上扱のひまひ
人ほどつるう所要するうの事とくくたては物語とまるるうう 終るま終るま
由まよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あまよよとまら 細 孟のまにうりし終るへのする也 幾回

あつたれり

物風やりの

暁 幽言の事也

仁王會 細七雜即滅の心よ

事也 暁曰 河仁王會ハ

經曰誦讀般若波羅蜜

七雜即滅七福即生萬

姓安樂帝王執喜日月

失度者星失度六雨風旱

鬼魂謂之七難 仁王經

持統天皇御宇始渡葉

本朝三月被行仁王會

例 天曆六年三月十七日

被行臨時仁王會一代丁

度被行之抄れ事

ひより 細 霰ふり

る也 暁 びよりハ周の

在夷伝の付天象の

影ハ河 毀諸善人故天

降電 金光明經 火雷雨電

相承 大唐德宗皇帝

代貞元四年 咸和四年

電落大如彈 長和三年

三月雷鳴氷降大如梅

孟紫の新 於ては南風をまじりて北風をまじりて細 春の事也

孟紫の事也 花保の事

ひより 暁 びよりハ周の

在夷伝の付天象の影ハ河

毀諸善人故天降電 金光明

經 火雷雨電相承 大唐德宗

皇帝代貞元四年 咸和四年

電落大如彈 長和三年三月

雷鳴氷降大如梅

あつたれり

物風やりの

暁 幽言の事也

仁王會 細七雜即滅の心よ

事也 暁曰 河仁王會ハ

經曰誦讀般若波羅蜜

七雜即滅七福即生萬

姓安樂帝王執喜日月

失度者星失度六雨風旱

鬼魂謂之七難 仁王經

持統天皇御宇始渡葉

本朝三月被行仁王會

例 天曆六年三月十七日

被行臨時仁王會一代丁

度被行之抄れ事

あつたれり

物風やりの

暁 幽言の事也

仁王會 細七雜即滅の心よ

事也 暁曰 河仁王會ハ

經曰誦讀般若波羅蜜

七雜即滅七福即生萬

姓安樂帝王執喜日月

失度者星失度六雨風旱

鬼魂謂之七難 仁王經

持統天皇御宇始渡葉

本朝三月被行仁王會

例 天曆六年三月十七日

被行臨時仁王會一代丁

度被行之抄れ事

あつたれり

物風やりの

暁 幽言の事也

仁王會 細七雜即滅の心よ

事也 暁曰 河仁王會ハ

經曰誦讀般若波羅蜜

七雜即滅七福即生萬

姓安樂帝王執喜日月

失度者星失度六雨風旱

鬼魂謂之七難 仁王經

左傳公の世に命を不致境に
くく卿にさめ成る人 天
らんごごなり

公卿非事不致境
れり原の祈禱の致也上より
くく卿にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

大炊殿 新橋
巨燐屋 中記 多天燐屋
細 雜舎也 明舎也

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

孟 孟 孟
孟 孟 孟
孟 孟 孟

の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ
の世にさめ成る人 命つ

これよりいづれかのの
 けいひ 血落去るを通る
 らでまのあがり 晴日

かりありかたれ
 細延巻のゆりのたまはよ
 母よりとけしきしきと
 引くふもれはこころ

海よりやむごとのかり
 花長眼弄りよちたの揚
 貴妃とよりしめし月の
 よ上を碧落下の美泉
 とつてふかきこころ

月のかりのこころ
 妙也枝子あけ落月満屋裏
 とそさひんかりり味ツト
 初妙也ま杜詩幾月在
 屋裏猶疑月顔色
 師ぞ杜子表李白とそそえ
 詩二首の内一首の白
 かり
 とはせぬ 海は入港よ
 のかりこと物事か
 後の宮身うやくの事な
 ころろとさあま
 もあつたふんさそまは
 いんいあつた孝心のい
 ころろ
 うろろろろろろろ
 晴ろろろろの想なくは
 又市門をまみももま
 らろろろろ

細延巻のゆりのたまはよ
 母よりとけしきしきと
 引くふもれはこころ
 海よりやむごとのかり
 花長眼弄りよちたの揚
 貴妃とよりしめし月の
 よ上を碧落下の美泉
 とつてふかきこころ
 いささかのかりありともまきさらりあつた
 どろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 りりりりりりりりりりりりりりりりりり
らちくさあつた
 のわろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 どはげろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 よろれびろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 らでろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 かれたろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 えのろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 かんろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 わろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 ろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

細延巻のゆりのたまはよ
 母よりとけしきしきと
 引くふもれはこころ
 海よりやむごとのかり
 花長眼弄りよちたの揚
 貴妃とよりしめし月の
 よ上を碧落下の美泉
 とつてふかきこころ
 いささかのかりありともまきさらりあつた
 どろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 りりりりりりりりりりりりりりりりりり
らちくさあつた
 のわろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 どはげろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 よろれびろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 らでろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 かれたろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 えのろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 かんろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 わろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
 ろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

是のありては... 世は... 細幸若の... 解... 細... 例...

ちうぞ... 不... 老子... 花... 男... 退...

細人の... 細... 細... 例...

今... 細... 細... 例...

今... 細... 細... 例...

とわらにわらひにつきあふ
 弄指一命風土記云雅伎
 言傳のまれの内わりの
 彈家島子津井の楠
 本よりて舟よりつるその
 赤虹のくもささみとふ
 ともくち又七波を
 よきてそよよとそよの舟
 とろづく 今葉明名浦
 よりあそびあやうらりと
 ころ風去先のふよとろり

とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ
 とわらにわらひにつきあふ
とわらにわらひ

にやろくろりわづりて
 ちゆぬふふふふでまひ
 ころひふふふふふふ
 とたれあやうそ風がど
 ゝゆふは叶たり
 月日の光よ
 細入るの光よみよ
 かなよりあり若葉は
 よみよこころうぐさお
 ころり

にやろくろりわづりて
 ちゆぬふふふふでまひ
 ころひふふふふふふ
 とたれあやうそ風がど
 ゝゆふは叶たり
 月日の光よ
 細入るの光よみよ
 かなよりあり若葉は
 よみよこころうぐさお
 ころり

月一らの玉丁まゝ
細字と云り

々よおのぢんしんちんちん
よしと云い

小山よく長信く信
と云い

リヤくげふと云り
細字と云り

と云い
細く地
のそとと云り

ひらきと云い
細字と云り

行、啼と云い
細字と云り

まーと云い
細字と云り

どのまねえもいんぬ
細字と云り

よしと云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

と云い
細字と云り

細く細く...
思よ依く...
思よ依く...
思よ依く...

入るびえの法師

細首八百者琵琶といひ

細首八百者琵琶といひ

也。尚附の首圓也。

小右記云召琵琶法師

全琴才藝給少録云

寛和元年七月十八日

細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

細首八百者の具一後...
細首八百者の具一後...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

めぞう...
めぞう...
めぞう...

延喜乃御もよし
暎筆琵琶の傳のゆきを
りりり 細河海鏡可治代ハ
七代うれが血脉三代と
りり

河筆相承事

宇多院時平木院 延喜帝

余婦石川色子

於筑紫彦山 伴勢

過唐人傳之奉

授宇多 勅子内親王券却

院云

實頼小野言 村上天皇

武人継之 朱雀院と天を

由門は唯とていつ延喜よ

里つぐくれば時代とて明石

入乃延喜由門よりと依の

へふ久くくきくしりり

や、答云ぬ延喜由門由

世よりとも孫曾みりりり

さよわくむと傳文と上り

どいよは八傳授とてこ

よと門守はも明りりり

三代よりとや況治世も己二代也

サハ云 如一本前王とて花を

延喜の帝の御人そ親王よ

延喜

山ガの 入乃力とてりり

山の山伏よくきくす

まろと云 細河は年を

わろおとと云くきくす

ろろよこれとてりりり

信氏のあふ人治とてりり

風と雲とてりりりりり

らうの御つりりりり

云云見 暎 女五宮

と信氏の物信一信之

の由門の女五宮のよと

くおんせりりりりり

とりりりりり 細綴

也但血脈よりハハハ

歌くきくきくきくき

くきくきくきくき

ハハハハ

ハハハハ

くくくくくくくくくくく

き海りりりりりりりりり

表の出てりりりりりりり

かんちりりりりりりりり

このよれりりりりりりり

らよりりりりりりりりり

わやりりりりりりりりり

口びりりりりりりりりり

一のひりりりりりりりり

るよやありりりりりりり

わをせりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

あきりりりりりりりりり

昔よりありて

細 後切てん人しは活能
作あさよしの細之由は

石あさよもささめと見え
とたり

わさ人の 細 琵琶引く

叶つり商人の書さすの

ひささうともさうともや

そ人のありしとて 明 樂

そらさうとと引くとい

少く 河 長安傳家女尊

学 琵琶 於穆曹二善文

年長色衰委身為商人

婦 在琵琶引 白樂天江州

の馬 尤近せられて 清

湖江上りて 紅 中二夜 琵琶

琵琶を弾きしとて 錦 法として

論 琴 母病 潯陽城 潯陽地僻

立音 樂終 氣不同 絲竹

言今夜 聞君 琵琶語 如聽

仙 樂 耳暫明とより 今は

さうととひつとを 有 幽

寂乎 花 文集の琵琶引

ハ白と云る

がされて 細 列の目さ

よなれり の 事之 源 氏

又 す かの 浦 よとりの ま

るれを を 復あり の 比

巴ひ る 女ハ あ さん

のめ は なれり の 地

あり の 事 は あり の 事

は と して ハ 来り の 事

は と して ハ 来り の 事

は と して ハ 来り の 事

は と して ハ 来り の 事

は と して ハ 来り の 事

は と して ハ 来り の 事

は と して ハ 来り の 事

いまよきとて 孟 捨イ 権池 抄 もの

心やり 細 め の 共

引く 細 也

し 細 入 の 細

し 細 入 の 細

か 細 入 の 細

し 細 入 の 細

え 細 入 の 細

わ 細 入 の 細

ふ 細 入 の 細

よ 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

は 細 入 の 細

どうせん 糸原のちたねの
のかいいつらうづちうづ
しとれど何とこころい
またらうんぞく又ほの

あがりのとくの経いする
そ何ともすがめすま
さしそをせよあれがま
杖を又とせぬ人のまを
さうへんさういづちやひ
しあさせとくけりくた
味いづし細原の心とま
らうらうさういづちのあ
さけくさつて下のおほ
のいさふさ一終りぞい
うやも一終りぞい
一目も内後れもせび
あまふんりりしていぬ
也花原氏のち女のせも
とりの一季休の所敷と
とわつよ何よりしこえ
ぬんといぬとの初め
とらう也又説上二の
く敷るぬぬはうり
内せこのあつとこ

がひてあつらんのわぢや
終らんさうらぬがかりと
あのみ 細といやうり
つとくやうたられ 細は
けつりぬむのうづひの
れなぢわり

うさうさうまはみぢさ
ひとえもろわぢめてわ
對してもみぢさあめ
ううあひわがりぬふ
あをさひわがりぬふ
あのみはさひさん
細原はう香地のやうに
物後しに今日のあ
はは何やうくわん
とわがや也
まうさうあしと
へたのうらせらう

又若うしとよま
あまざらうん
がめせしと
女ん中く 細いめの
はのちなぐらのい
どいであまふん

わうらうらうらうら
もきしきしきしきしき

あつらんの経をよ
人のまうらまさんての
あひんてはさしきしき

しきしきしきしきしき
もんめうさうは
まわらう文書よとの表
かきやうはさしきしき

あまらうはさしきしき
てうらうらうらうら
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

あひんはさしきしき
あひんはさしきしき

いさよあしき... 細く... 河せよ... 細く... 世の中... 親... 娘...

おのこは... 細く... 河せよ... 世の中... 親... 娘... 年... 月...

はしき... 細く... 河せよ... 世の中... 親... 娘...

おのこは... 細く... 河せよ... 世の中... 親... 娘... 年... 月... 親... 娘... 年... 月...

あつとと橋くさつり、雲
こまよりのつらさ
いどうすくろふがうしん
細田付はまよしも後とら
ふいとつねに一盃原と志
と後とたまづし
つらうらぐさ 細けりまつ
あつととどりあつとと
あつととどらふのうと云
年もつらぬ 細原家
あつとと三々めけふの
十七果にけ年梅落わり
あつとと 細原家の又太
也あつとと女流ハ賢
思の妹也

あつととくさつり、雲
こまよりのつらさ
いどうすくろふがうしん
細田付はまよしも後とら
ふいとつねに一盃原と志
と後とたまづし
つらうらぐさ 細けりまつ
あつととどりあつとと
あつととどらふのうと云
年もつらぬ 細原家
あつとと三々めけふの
十七果にけ年梅落わり
あつとと 細原家の又太
也あつとと女流ハ賢
思の妹也

あつととくさつり、雲
こまよりのつらさ
いどうすくろふがうしん
細田付はまよしも後とら
ふいとつねに一盃原と志
と後とたまづし
つらうらぐさ 細けりまつ
あつととどりあつとと
あつととどらふのうと云
年もつらぬ 細原家
あつとと三々めけふの
十七果にけ年梅落わり
あつとと 細原家の又太
也あつとと女流ハ賢
思の妹也

あつととくさつり、雲
こまよりのつらさ
いどうすくろふがうしん
細田付はまよしも後とら
ふいとつねに一盃原と志
と後とたまづし
つらうらぐさ 細けりまつ
あつととどりあつとと
あつととどらふのうと云
年もつらぬ 細原家
あつとと三々めけふの
十七果にけ年梅落わり
あつとと 細原家の又太
也あつとと女流ハ賢
思の妹也

はらわちやみよ

はたねんまきわたり
しるもはなをそそ
るれがし

やぐの人らなづー

別のさつは後のらづー
少さの明名のしれはん
づーしりしりしりしりしり
か細えのそらづーしり

細良はしり若葉にあり

ーたたり 葉山あそ
の池づーたりたり

くさくさず 細さくめさ
あつた人のふと良はが
んて我とつひたりー曲
とー也 昨日

まゆもしもさくまぬら
今かたのちろくあひての
色もはぬらとーたりよえ

まゆらししはと音はあ

おつて大教さくまよ

くさくさく又まよ

あづー

まゆしはあみく

細まゆしんとあま
所しりしはあみく

まゆらしはあみく

細まゆしよてはのしり

控路もまびやのあま

づりあみもままはり

ての華やうんままはり

まゆらしはあみく

細まゆしよてはのしり

思く也 孟 明の上のこ
ら也

まゆらしはあみく

んとあみくまゆし

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

まゆらしはあみく

ろわやく候 細折くしけう
らととるれりむごれ
か秋の暮ともどきと
まれば夕とつらしの暮に
も夕の煙をぐくちるに
町の暮とらよとあま
かたぐい 味曰
このはひ 細つぬはひ
にひびく 師出
うらねばまらむら
んととあまの
かたぐい 細つぬはひ
かたぐい 味曰
師出
と卑下とせらるる
つめらとひあれ
夕の暮とらよとあま
かたぐい 細つぬはひ

秋の風はる銭わが
さうりすつららるる
かたぐい 味曰
師出
と卑下とせらるる
つめらとひあれ
夕の暮とらよとあま
かたぐい 細つぬはひ

あらしりてぢり
まんの西
源が京の町り
けいけいのま
うらねばまらむら
んととあまの
かたぐい 細つぬはひ

かたぐい 味曰
師出
と卑下とせらるる
つめらとひあれ
夕の暮とらよとあま
かたぐい 細つぬはひ

あらしりてぢり
まんの西
源が京の町り
けいけいのま
うらねばまらむら
んととあまの
かたぐい 細つぬはひ

24

別よカきつらうゆく
おのらうとあつらふ
おぬと根幸のうら
りちちちちちちちちちち

ほのほゆ系はきして明の上
と持うよあはあわねづ
ららんもよりあつらふ
うれどもさくがのんや
いぢやうよあつらふ
かりぐー
母君もさぐさあつて

むすめのおぢくとおぢめ
俺て後悔とて
あまうや 孟あまう
ちやとく 細入の如く
ありともあつらふ
ほのほあつらふ
あまうや 孟あまう

あまうや 孟あまう
ひてあつらふ
ていさうやとく 併ひ
のあまうとてあつらふ

あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう

あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう

あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう

あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう
あまうや 孟あまう

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら
らららららららららら

あふはくくあかき

りうんー 佛不縁の事

よつそてり位とけん

とゆがもゆらるるー

あそびるもせむ

如西白劫定て八月十の夜

也。おきひの真まき 晴上

の原成は作らるるぶさ御相

うあそわるるさとい御相

あや

河大海百二海神日本紀

海底 百二海神 海若さうら

うー海の名ん 百二十

あーとまうーとれま

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

うーれとらまうーれ

五十一

うらひい 細くぐるやせ

あしふくろくろくやせま
とくろくろくしどろくろく
くろくろくあくろくくろく
よせまうくろくろくろくを
の終つてたもよまろくろく
花は舞いぐるぐろくまろく
みろくろくのろくろく神の
せろくろくあはれはせろく
くろくは舞のまろくろくろく
よあろくろくろくやせまろく
いづろくろくやせまろくろく海
の浦よりろくろくあはれは
の舟よせろくろくろくろく
一まろくろくろくろくろく

うらひい
あしふく
とくろく
くろくろく
よせま
の終つて
花は舞い
みろくろ
せろくろ
くろくは
よあろく
いづろく
の浦より
の舟よせ
一まろく

保

うらひい
あしふくろくろく
とくろくろくろく
くろくろくろくろくろく
よせまろくろくろく
の終つてたもろくろくろく
花は舞いぐるぐろくろく
みろくろくのろくろく
せろくろくあはれはせろく
くろくは舞のまろくろく
よあろくろくろく
いづろくろくやせまろく
の浦よりろくろくあはれは
の舟よせろくろくろく
一まろくろくろくろく

うらひい
あしふく
とくろく
くろくろく
よせま
の終つて
花は舞い
みろくろ
せろくろ
くろくは
よあろく
いづろく
の浦より
の舟よせ
一まろく

